

平成 16 年度 社団法人日本動物学会  
事業報告書

1. 学術集会の開催

日本動物学会第 75 回大会 甲南大学 (神戸市)

9 月 10 日-12 日 参加者数 1200 名 演題数(ポスター) 623 題、シンポジウム 20 テーマ 107 題

(社) 日本動物学会 125 周年記念講演会 「日本動物学会 125 周年を迎えて」

市民交流会「動物学ひろば」

動物学ひろばシンポジウム 「死を通して生命を見る」

動物学ひろばポスター発表

高校生によるポスター発表 19 校 27 題

学会全体の公開

2. 全国 7 支部による支部大会およびシンポジウムの開催

北海道支部 第 499 回支部講演会

日時： 平成 16 年 2 月 6 日 (金) 14:00 より

場所： 北海道大学・理学部 5 号館 813 号室

講演者： Ishwar S. Parhar, Director

Molecular neuroendocrinology unit, Department physiology, Nippon Medical School

演題： GnRH and the control of the pituitary

北海道支部 第 500 回支部講演会

2 月 21 日 2 月 25 日 (火) 北海道支部講演会

場所： 北海道大学総合博物館 知の交流コーナー

講師： 村田 浩一 氏 (日本大学生物資源科学部)

演題： 動物園での研究 身近な野生動物研究のフィールド?

3 月 14 日 (金) 北海道支部講演会

場所： 北海道大学電子科学研究所 2 階講堂

講師： Dr. Walter Metzner (Department of Physiological Science, UCLA)

演題： 自分が出した声を聞く事がどう発声に影響するのか?

コウモリの脳から学ぶこと

題名 脳研究の最前線 -分子からシステムへ-

(1) 神経回路網制御分子と脳高次機能 三品 昌美 (東大・医学系研究科)

(2) 脳がつくる三次元世界：側頭葉とステレオ立体視 藤田 一郎 (阪大)

・生命機能研究科)

日時：平成16年3月8日(月) 15:00より

場所：北海道大学・理学部5号館813号室

講演者：Professor Robert M. Woollacott

Department of Organismic and Evolutionary Biology

Harvard University, Cambridge, MA 02138, USA

演題："Studies of Bryozoan Larval Biology and Postlarval Phenotypic Variati

生殖生物学シンポジウム「脊椎動物の生殖機能：確立とその制御機構」

日時：2004年3月9日(火) 13:30-16:00

場所：北海道大学大学院理学研究科講義室5-301

13:30-----開会の辞／鈴木範男(北海道大学 理学研究科)

13:35-14:05-----●田中実(北海道大学 理学研究科)

「性決定遺伝子発現細胞の分化機構」

14:05-14:35-----●三浦猛(愛媛大学 農学部)

「ステロイドホルモンによる雌雄共通の配偶子形成制御機構」

14:35-14:50-----休憩

14:50-15:20-----●山下正兼(北海道大学 理学研究科)

「M期促進因子(MPF)の形成と作用から見る卵成熟の分子細胞機構」

15:20-15:50-----●高橋純夫(岡山大学 理学部)

「局所調節因子としての成長因子による生殖機能制御機構」

15:50-----閉会の辞／高橋孝行(北海道大学 理学研究科)

問い合わせ先：北海道大学大学院理学研究科生物科学専攻

高橋孝行先生 電話：011-706-2748

共催 (社)日本動物学会 北海道支部

3月20日 関東支部第56回大会 於東京大学山上会館

北海道支部 第501回支部講演会

日時：平成16年3月24日(月)

場所：北海道大学・電子科学研究所

Dr. Swidbert R. Ott (13:05-13:45)

School of Life Sciences, University of Sussex, U.K.

Nitric oxide, the enigmatic transmitter: lessons from little brains

Dr. Hiroto Ogawa (13:45-14:25)

Department of Biology, Saitama Medical School, Japan

Ensemble representation and integrative processing of sensory signals in the cricket cercal system

Dr. Zoltan Serfozo (14:35-15:15)

Department of Animal Anatomy and Physiology, University of Debrecen, Hungary  
CREB in the snail nervous system: does it exhibit the same function as in vertebrates?

Dr. Etsuro Ito (15:15-15:55)

CRIS, Hokkaido University, Japan

Molecular analyses for associative learning in the pond snail *Lymnaea stagnalis*

5月17日（月）日本動物学会東北支部・支部だよりNO. 38発行

第57回日本動物学会九州支部大会

会期：2004年5月15日（土）～16日（日）

会場：九州大学箱崎キャンパス

口演 22題

三学会合同熊本例会

日時：2004年4月17日（土）午後1：30～5：00

会場：熊本大学理学部321講義室

講演：

1. 「可変型遺伝子トラップ法を用いたRhoA遺伝子の解析」

荒木正健（熊本大学生命資源研究支援センターバイオ情報分野）

2. 「海藻クロメから得られるポリフェノールの機能性とその利用に向けた取り組みについて」

長山公紀（予定）（水産研究センター利用加工研究部）

3. 「天草におけるサンゴの北上：身近な地球温暖化」

野島 哲（九州大学天草臨海実験所）

北海道支部 第502回支部講演会

日時：5月17日（月） 午後1：30－3：00

場所：北海道大学・理学部5号館813室

講演者：Prof. Karoly Elekes Department of Experimental Zoology, Balaton  
Limnological Research Institute, Hungarian Academy of Sciences, Tihany, Hungary  
演題： Neurotransmitters in gastropods: the hierarchical organization of signaling pathways

北海道支部 第503回支部講演会

日時：5月19日（水） 午後1：30－3：00

場所：北海道大学・理学部5号館813室

講演者： Dr. Peter de Jong

Laboratory of Entomology, Wageningen University, The Netherlands

演題：Adaptive evolution in the wild: genetics, fitness consequences and population biology of insect adaptation to its host plants.

三学会合同沖縄例会

共催：沖縄生物学会

日程：5月22日（土）9：45より

場所：名桜大学講義棟109号室

一般口演 18 題

シンポジウム

「やんばるの危機－マングースの北進とペット問題－」

金城道男（おきなわフィールドワーク）・長嶺 隆

（ヤンバルクイナたちを守る獣医師の会）・仲地 学

（南西環境研究所）

5月17日（土）中四国支部大会 島根大学生物資源科学部

講演題数52題（口頭発表20題、ポスター発表32題）

参加者数186名

5月31日（土）13:30-16:30 近畿支部研究発表会 大阪市立大学 学術総合情報センター研究  
発表11演題、参加者75名

6月15日（火）日本動物学会東北支部・支部だより N0.39 発行

7月11日（金）北海道支部講演会

場所：北海道大学 理学部 5号館 813室

講師：Dr. Paul D. Taylor (Department of Palaeontology, The Natural History Museum,  
London)

演題：Explosive evolutionary radiation in cheilostome Bryozoa

日本動物学会北海道支部 第504回支部講演会

日時：平成16年7月12日月曜日 17：00より

場所：北海道大学歯学部 講堂

演題：「脳を知り、脳を育む」

演者：東北大学未来科学技術共同研究センター 教授

川島 隆太 先生

## 生殖生物学シンポジウム「脊椎動物の生殖機能：確立とその制御機構」

7月17日（土曜日）午後2時から6時 早稲田大学国際会議場・井深ホール

プログラム

開演 午後2時

挨拶 中村正久（日本動物学会関東支部支部長・早稲田大学教育学部）

第一部

司会：蟻川謙太郎（横浜市立大学大学院総合理学研究科）

（1）長谷川博（東邦大学理学部）

「アホウドリを救え！」（40分）

（2）中井克樹（滋賀県立琵琶湖博物館）

「琵琶湖の変化と外来魚一魚をめぐる常識の行き違い」（40分）

第二部

司会：小林牧人

（3）今川和彦（東京大学大学院農学生命科学研究科）

「クローン家畜」（40分）

（4）吉崎悟朗（東京海洋大学海洋科学部）

「養殖魚とバイオテクノロジー：アジからマグロが産まれるか？」（40分）

7月23（金）－24日（土）平成16年度中部支部大会（静岡グランシップ）

### 講演:

- マウス自己免疫病発症に対する Bisphenol A および Genistein の影響

茶山和敏(静岡大・農学), 螺良愛郎(関西医科大・病理学第二講座)

- ウズラ・アグーチ遺伝子の同定並びに羽毛芽色素パターン形成過程における発現解析

丹羽 透 1, 中村 明 2, 塩尻信義 3

(1 国立がんセンター研究所・発がん, 2 静岡県立大, 3 静岡大・理・生地環)

- ヒト多精卵における極体様構造(polar-body like structure, PLS)の形成

鄭 仁成, 可児里美, 花井邦成, 山本謙也(岐阜大学・農学部・多様性生物学講座)

- カタユレイボヤ精子の運動活性化に關与するタンパク質について

保住暁子 1,2, 戸田年総 3, 稲葉一男 2(1 東北大・生命科学, 2 筑波大・下田臨海, 3 都老人研・プロテオーム)

- キンギョ卵におけるカゼインキナーゼ 1a の 4 種類のアイソフォームのクローニングおよび発現解析堀口 涼 1,2, 徳元美佳 1,2, 長濱嘉孝 2,3, 徳元俊伸 1,2 (1 静岡大・理・生地環, 2 科学技術振興機構, 3 基礎生物学研究所)

- 新規膜結合型プロゲステロン受容体

柴田安司, 長濱嘉孝, 吉国通庸(基生研・生殖)

- ゼブラフィッシュ A 型精原細胞の単離法とその培養系の開発

齊藤憲二<sup>1,2</sup>, 長濱嘉孝<sup>1</sup>, 酒井則良<sup>2</sup>(<sup>1</sup>基生研・生殖, <sup>2</sup>遺伝研・小型魚類開発)

- ゼブラフィッシュ初期胚由来培養細胞の二次胚誘導能の解析

橋口 恵<sup>1,2</sup>, 酒井則良<sup>2</sup>(<sup>1</sup>福井県大・海洋生物資源, <sup>2</sup>遺伝研・小型魚類開発)

- メダカの器官形成を三次元画像で見る

萱野公平, 原田智弘, Lee Lawlence, 橋本寿史, 尾里建二郎, 若松佑子(名大・生物機能セ)  
Cloning, expression and characterization of three types of 17 $\beta$ -hydroxysteroid dehydrogenases from the Nile tilapia, *Oreochromis niloticus*

Linyan Zhou, Deshou Wang and Yoshitaka Nagahama (Laboratory of Reproductive Biology, National Institute for Basic Biology, Okazaki 444-8585, Japan)

- Differential Expression of Medaka DMY and DMRT1 En-Lieng Lau, Masaru Matsuda, and Yoshitaka Nagahama (Laboratory of Reproductive Biology, National Institute for Basic Biology, Okazaki 444-8585 and CREST)

- 遺伝的全雄コイの性分化に対する外因性女性ホルモンの影響

ビテロジェニン環境ホルモンによる性分化障害の指標となるのか

平井俊朗, 松原 創, 寺本由宇, 佐藤 将, 原 彰彦, 榎 克子, 中村 将(帝京科学大・バイオ, 新潟県内水面水試, 北大院・水産, 琉球大・熱生研)

- **特別講演**

- ツメガエル中期胞胚遷移のチェックポイント制御

佐方功幸(九州大・理学研究院・生物科学)

- 「カエル卵成熟に魅せられて」

石川勝利(静岡大・理・生物)

- **一般および 高校生による口頭及びポスター発表**

- ベッコウトンボの産卵条件調査, シオカラトンボの光感覚調査, カニの産卵リズム調査

山本紘之, 平野雅大, 鈴木貴博, 杉浦 修(顧問), 松本幸啓(顧問)(静岡県立磐田南高校)

- パソコン・ビデオを使った動物行動・形態変化の観察(ダイジェスト)高原 理, 榎 拓也, 梅田 祐樹, 小林設郎(顧問)(静岡県立長泉高校・自然科学部)

- トリブチルスズ(TBT)のシオダマリミジンコに対する影響

林 祐司, 奥田里澄, 神水彩花, 小野剛志, 伊藤直樹, 山下宏幸, 西飯信一郎(鈴鹿高校・自然科学部・三重)

- 鈴鹿川水系の環境調査

林 祐司, 奥田里澄, 神水彩花, 小野剛志, 伊藤直樹, 山下宏幸, 西飯信一郎(鈴鹿高校・自然科学部・三重)

- 絶滅危惧植物であるミクリの調査・研究について

笹井良太, 前川裕児, 稲垣聖二(顧問), 山本幸憲(顧問)(静岡県立静岡高校・生物部)

- メダカが空を飛ぶ可能性について

伊藤彰紀, 田島一輝, 赤座由華, 佐分隆文(滝高校・生物部・愛知)

- 魚類肝臓中のシスタチオニン  $\gamma$ -リアーゼの性状と分布  
貝増卓見, 高橋智子, 田中奈津美, 後藤孝信(沼津高専), 原崎孝(焼津冷蔵)
- ウナギ肝臓中の含硫アミノ酸代謝に関係した酵素活性の分布  
田中奈津美, 後藤孝信, 木根悠太(沼津高専), 原崎 孝(焼津冷蔵)
- 魚類肝臓中のシステインジオキシゲナーゼ活性の測定方法について  
木根悠太, 蓮実文彦, 望月明彦, 後藤孝信(沼津高専)
- アルテミア(*Artemia franciscana*)における内分泌攪乱化学物質の暴露影響  
湯山育子 1,2, 竹内浩昭 1(1 静岡大・理・生物, 2 東大・海洋研・海洋生命科学)
- トノサマガエルの精巣卵出現とピテロジェニンの関連性  
磯田真希 1, 持田弘 2, 鈴木雅一 1, 田中滋康 1 (1 静岡大・理・生物, 2 蛋白精製工業)
- マウス肝再生過程における肝細胞増殖因子(HGF)とその受容体の分布変化の解析  
前田裕代, 小池 亨, 塩尻信義 (静岡大・理・生地環)
- マウス胎仔肝芽細胞の増殖・分化における細胞外マトリックスの働き  
杉山良典, 小池 亨, 塩尻信義(静岡大・理・生物地球環境科学科)
- 両生類におけるアクアポリン1の発現と局在  
久保田真, 長谷川敬展, 和田智恵美, 鈴木雅一, 竹内浩昭, 田中滋康(静岡大・理・生物)
- ウシガエル赤血球の甲状腺ホルモン取り込み機構と甲状腺ホルモン応答遺伝子への化学物質の影響 嶋田直幸, 山内清志(静岡大・理工学研究科・生物地球環境科学)
- マウスの実験的精巣性テラトーマ形成にかかわる新規遺伝子候補群の染色体マッピング  
池田よし江1, 久保生恵2, 藤田菜都美2, 菅沼さえり2, 野口基子2(1 静岡大院・理工・生地環, 2 静岡大・理・生地環)
- マウスの生殖細胞欠損遺伝子 *ter* のファインマッピング  
宮口千晶2, 高林秀次3, 大藤利通1, 花光里沙1, 野口基子1 1 静岡大・理・生地環, 2 静岡大院・理工・生地環, 3 浜松医大・動実)
- ドイツにおけるビオトープ保護の現状と問題点  
岩澤 淳(岐阜大学・応用生物・環境生態)
- **シンポジウム:**
- 『身近な動物の多様な生き方のふしぎ - カタツムリからウズラまで-』
- 「私が出会った奇妙な動物たち～動物の多様な形態と進化」  
西川輝昭(名古屋大・博物館)
- 「鏡に映るカタツムリの進化」  
浅見崇比呂(信州大・理・生物)
- 「ホヤとヒトとの間にあるもの - 進化発生研究とバイオ技術のはざままで -」  
小笠原道生(千葉大・理・生物)
- 「ヤツメウナギから脊椎動物下垂体の進化を考える」  
内田勝久(理研, 新潟大・臨海実験所)

- 「本当ですか, カエルではお腹から水を飲むというのは」  
田中滋康(静岡大・理・生物)
- 「生物学とウズラ」  
中村 明(静岡県大名誉教授)
- **特別講演:**  
「メダカの性はどのようにして決まるのか - 脊椎動物における性決定の多様性 -」  
濱口 哲(新潟大・理・自然環境)

7月26日(土)九州支部例会いのちのたび博物館(北九州市立自然史・歴史博物館)

プログラム

13:00 館内講座室集合、挨拶

13:10 講演

13:45 博物館内ガイダンス

14:00 バックヤード見学

14:30 解散、館内自由見学

講演「博物館をみんなの教室に」

丸山 誠吾(いのちのたび博物館普及課主査・ミュージアムティーチャー)

8月1日(金)、長野県塩尻市(松本歯科大学)

8月7日(土)平成16年度 日本動物学会東北支部大会 (福島県立医科大学・光が丘会館)

8月8日(日)平成16年度科学研究費補助金研究成果公開発表(B)補助事業「親子で楽しむ動物学6 知っていますか身近な動物たち:環境と生物から学ぶこと」(福島県立医科大学・光が丘会館)

講演「レッドデータブックふくしまー絶滅のおそれのある哺乳類」福島大学 木村吉幸教授

講演「川とふれあい 川と学ぶ」NPO法人「水環境ネット東北」相楽昌男氏

実習「身近な川にすむ動物ー自分の目で水生昆虫をみてみよう」福島大学 塘忠顕助教授

8月21日(土)北海道支部第50回大会 於 厚岸

9:25~9:30 開会

9:30~12:15 口頭発表

12:15~13:15 昼休み

13:15~13:45 総会

13:45~15:00 講演 1, 2

15:00~17:15 口頭発表

17:30~19:30 懇親会(大会会場)

10月29日(金)日本動物学会東北支部・支部だより NO.40 発行

11月2日(日曜日)九州支部宮崎例会宮崎大学農学部大講義室(206室)

講演 1. 「地域と大学が取り組む環境保全型農業：生態系の天敵を取り込んだ減農薬栽培」大野 和朗（宮崎大学農学部応用昆虫学研究室）

2. 「ファイトレメディエーション：ヒマラヤザクラによる環境浄化」  
山岸 善忠（グリーンテック㈱・宮崎大学地域共同研究センター客員教授）

11月8日（土）九州支部佐賀例会 佐賀大学農学部第4講義室（佐賀市本庄町本庄 佐賀大学農学部1号館）

講演

1. 「MPN法による土壌繊毛虫のバイオマス推定における土壌試料の処理について」河知 圭介（西九州大学）

2. 「シチメンソウの耐塩性」堤 功一・谷本 静史（佐賀大学農学部）

3. 「千島国際生物多様性調査：水生昆虫相について」

皆川 昇（佐賀大学医学部）

11月15日（土）九州支部熊本例会 熊本大学理学部321講義室

講演 1. 「海浜性植物群集における植物－昆虫関係：シュートと鱗翅目相について」横尾 誠（九大院・理・臨海）

2. 「分裂酵母における mRNA 核外輸送」井手上 賢（九大院・理・生物）

3. 「微生物由来エチレン生成遺伝子の植物への導入」

荒木 誠士（熊本県農業研究センター生産環境研究所 環境保全研究室）

11月22日（土）近畿支部公開講座「畠島 海の生物観察会」京都大学フィールド科学研究教育センター 白浜臨海実験所と共催 近隣の住民等、参加者16名

12月6日（土）九州支部福岡例会 九州大学箱崎キャンパス理学部生物第一講義室

講演

1. 「メスの交尾回数とオスの交尾器に付属する骨片サイズの関係－メスの交尾回数が異なるアズキゾウムシ2系統間の比較－」

桜井 玄（九州大学大学院理学府生物科学専攻）

2. 「光合成・水分解系の構造と機能」

田村 典明（福岡女子大学人間環境学部）

3. 「カイコの生物遺伝子資源の多様性とその順化過程を探る」

伴野 豊（九州大学大学院農学研究院附属遺伝子資源開発研究センター）

12月

13日（土）九州支部鹿児島例会 鹿児島大学理学部220号講義室（理学部2号館2階）

【高等学校における生物研究成果発表】

1) 『鹿児島県日置郡に生息するヒグラシに関する研究』

田中 良浩・神田 雄樹・福山 真子・郡山 純・楠原 千穂・中村 志保

(甲陵高等学校科学同好会)

2) 『天降川におけるカワゴケソウの分布とその形態』

福塚 佑介・宇都宮 千恵美・救仁郷 恵里・和田 浩平・崎山 由美・福崎  
浩子 (国分高等学校理数科2年生物班)

3) 『カワゴケソウの生息する川の環境化学』

有村 太志・原田 裕基・竹下 綾香・二反田 智春・羽生絵 里菜・薬丸麻  
菜美 (国分高等学校理数科2年化学班)

4) 『奄美群島与路島の生物総合調査報告』

村山 匡志・渡 将吾 (古仁屋高等学校生物同好会)

【特別講演】

『地球温暖化の中での耐暑性植物の育種戦略』

射場 厚 (九州大学理学研究院生物科学部門教授)

12月18日(土) 13:00～15:00

場所: 松山市文京町2-5 愛媛大学理学部講義棟 301 教室

プログラム

1・フタホシコオロギとカマドコオロギにおける空気流感覚システムの比較

黒石博之・縄江みゆき・加納正道(愛媛大・理・生地)

2・コオロギの下行性介在神経で見られる歩行時の神経活動

田桑弘之・加納正道(愛媛大・理・生地)

3・胚発生を指標とした海洋汚染モニタリングシステムの開発 I: イトマキヒトデ胚の体軸形成に及ぼす影響(レクチン染色を用いて)

土居原拓也<sup>1</sup>・味口裕仁<sup>1</sup>・宮脇恭史<sup>2</sup>・金子洋之<sup>3</sup>・小森弘章<sup>4</sup>・

陳潔<sup>1</sup>・李春宇<sup>1</sup>・高双燕<sup>1</sup>・王衆<sup>1</sup>・王敏<sup>1</sup>・薛冰<sup>1</sup>・齋藤恭子<sup>1</sup>・寺下健洋<sup>1</sup>・

下川哲哉<sup>1</sup>・齋藤正一郎<sup>5</sup>・小林直人<sup>1</sup>・松田正司<sup>1</sup>・能勢真人<sup>4</sup>(<sup>1</sup>愛媛大・

医・統合生命・解剖発生、<sup>2</sup>愛媛大・沿岸・環境比較病理、<sup>3</sup>慶應大・生物、

<sup>4</sup>愛媛大・医・病因病態・ゲノム病理、<sup>5</sup>岐阜大・応用生命・獣医)

4・胚発生を指標とした海洋汚染モニタリングシステムの開発 II: イトマキヒトデ幼生食道輪走筋繊維数の変化

味口裕仁<sup>1</sup>・土居原拓也<sup>1</sup>・高田裕美<sup>2</sup>・宮脇恭史<sup>3</sup>・小森浩章<sup>4</sup>・

陳潔<sup>1</sup>・李春宇<sup>1</sup>・高双燕<sup>1</sup>・王衆<sup>1</sup>・王敏<sup>1</sup>・薛冰<sup>1</sup>・齋藤恭子<sup>1</sup>・寺下健洋<sup>1</sup>・

下川哲哉<sup>1</sup>・齋藤正一郎<sup>5</sup>・小林直人<sup>1</sup>・松田正司<sup>1</sup>・能勢真人<sup>4</sup>(<sup>1</sup>愛媛大・

医・統合生命・解剖発生、<sup>2</sup> 愛媛大・理・生地、<sup>3</sup> 愛媛大・沿岸・環境比較病理、<sup>4</sup> 愛媛大・医・病因病態・ゲノム病理、  
<sup>5</sup> 岐阜大・応用生命・獣医)

5・原始的なショウジョウバエにおけるP因子の分子進化

長島久美子・和多田正義(愛媛大・理・生地)

6・精子形成解析系としてのウナギ

三浦 猛<sup>1・2</sup>・三浦智恵美<sup>2</sup>(<sup>1</sup>愛媛大・農・水族、<sup>2</sup>JST さきがけ 21)

7・日本で見出される亜熱帯産ショウジョウバエ

日原冬生(愛媛大・理・生地)

12月20日(土)九州支部大分例会 大分大学教育福祉科学部 200号教室

講演

1. 「ペプチドグリカン合成を阻害する抗生物質の色素体分裂に及ぼす影響」

泉 好弘(大分大学教育福祉科学部)

2. 「森林管理と土砂崩落の端緒」

菊屋 奈良義(社団法人 大分野生生物研究所)

3. 動物学の普及活動

平成15年11月5日提出「移入種対策に関する措置の在り方について(中間報告)」についてのコメント

4. 学会誌・図書の刊行

Zoological Science 21巻1号-21巻12号

生物科学ニュース 385号-396号

5. 動物学研究業績の表彰と研究奨励

動物学会賞

蟻川謙太郎(横浜市立大学)

「チョウ類の光感覚に関する研究」

藤澤敏孝(国立遺伝学研究所)

「ヒドラのペプチド性シグナル分子の組織的解析」

奨励賞

千葉和義(お茶の水女子大学)

「ヒトデ卵を用いた減数分裂と受精の研究」

深津武馬(産業技術総合研究所)

「昆虫類における共生微生物の機能，起源，進化に関する研究」

第4回「日本動物学会 女性研究者奨励OM 賞」

木下充代（横浜市立大学大学院総合理学研究科・博士研究員）

研究テーマ「アゲハ脳における神経伝達物質と生理活性ペプチドの分布  
地図作成」

杓掛磨也子（産業技術総合研究所・生物機能工学部門・生物共生相互作用研究グループ・第一号非常勤職員（ポスドク））

研究テーマ「社会性アブラムシにおける兵隊特異的発現プロテアーゼの  
機能と進化に関する研究」

江上基金（若手研究者国際会議出席費用補助金）受賞者

有岡幸子（慶應義塾大学）第19回国際動物学会（北京）に参加

笹倉靖徳（京都大学大学院）The Second Annual International Conference

on Transposition and Animal Biotechnology（Minneapolis）に参加

論文賞

(1)

Suzuki, A. C.

Life History of *Milnesium tardigradum* Doyère (Tardigrada) under a Rearing Environment. Zool. Sci. 2003, 20(1):49-57.

(2)

Henmi, Y and Yamaguchi, T.

Biology of the Amphioxus, *Branchiostoma belcheri* in the Ariake Sea, Japan I. Population Structure and Growth.

Zool. Sci. 2003, 20(7):897-906.

(3)

Yamaguchi, T and Henmi, Y.

Biology of the Amphioxus, *Branchiostoma belcheri* in the Ariake Sea, Japan II. Reproduction

Zool. Sci. 2003, 20(7):907-918.

(4)

Ito, I, Watanabe, S, Kimura, T, Kirino, Y and Ito, E.

Negative Relationship between Odor-Induced Spike Activity and Spontaneous Oscillations in the Primary Olfactory System of the Terrestrial Slug *Limax marginatus*.

Zool. Sci. 2003, 20(11):1327-1335.

(5)

Ito, I, Watanabe, S, Kimura, T, Kirino, Y and Ito, E.

Distributions of  $\gamma$ -Aminobutyric Acid Immunoreactive and Acetylcholinesterase-Containing Cells in the Primary Olfactory System in the Terrestrial Slug *Limax marginatus*.

Zool. Sci. 2003, 20(11):1337-1346.

(6)

Yamamoto, T, Yao, Y, Harumi, T. and Suzuki, N.

Localization of the Nitric Oxide/cGMP Signaling Pathway-Related Genes and Influences of Morpholino Knock-Down of Soluble Guanylyl Cyclase on Medaka Fish Embryogenesis.

Zool. Sci. 2003, 20(2):181-191.

(7)

Ichikawa, T.

Firing Activities of Neurosecretory Cells Producing Diapause Hormone and its Related Peptides in the Female Silkworm, *Bombyx mori*. I. Labial Cells.

Zool. Sci. 2003, 20(8) : 971-978.

(8)

Ichikawa, T. and Kamimoto, S.

Firing Activities of Neurosecretory Cells Producing Diapause Hormone and its Related Peptides in the Female Silkworm, *Bombyx mori*. II. Mandibular and Maxillary Cells.

Zool. Sci. 2003, 20(8) : 979-983.

安増基金授与者 5名

池永隆徳・岡田令子・田守洋一郎・中本章貴・吉崎史子

7. 研究及び調査（各委員会関係ほか）

- 1) 動物学資料保存に関する調査（資料保存委員会）  
Zootree データベースの作成
- 2) 将来の動物学の在り方に関する調査（動物学将来計画委員会）
- 3) ガイアリスト 21 計画の推進（ガイアリスト 21 委員会）
- 4) 生物教育用語の検討（学術用語集改訂委員会）
- 5) 実験動物取り扱いに関する指針の検討
- 6) 研究用動物提供プロジェクト

8. SPARC/JAPAN 事業への参画